

問1 大阪府の統計において、夜間の常住人口を100とした場合の昼間人口の割合（昼間人口比率）は104.5%となっており、100%を超えています。一方で、隣接する兵庫県は95.6%、奈良県は89.8%といずれも100%を下回っています。大阪府でこのような数値が示される理由として、最も適切な説明を選びなさい。（2018年 熊本県公立入試 類似）

1. 大阪府は周辺の府県に比べて出生率が非常に高く、若年層の人口が急増しているため。
2. 網の目のように発達した鉄道網を利用し、兵庫県や奈良県などから通勤・通学のために流入する人が多いため。
3. 歴史的な建造物やテーマパークを訪れる観光客が、宿泊を伴わずに日帰りでのみ滞在しているため。
4. 大阪府内の住宅不足により、夜間は府外へ移動して宿泊する労働者が増加しているため。

問2 製造品出荷額の構成において、石油・石炭製品や化学工業、鉄鋼業といった重化学工業が上位を占めている県があります。臨海部を中心にこれらの大規模な工場が発達している、近畿地方に属する県はどこですか。（2023年 富山公立入試 類似）

1. 和歌山県
2. 静岡県
3. 長野県
4. 滋賀県

問3 和歌山県では農業産出額に占める果実の割合が非常に高いですが、このように果樹栽培が盛んになった地理的背景を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2020年 兵庫公立入試 類似）

1. 黒潮の影響を受けた温暖な気候であり、水はけが良い傾斜地が多く存在するため。
2. 広大な平野を活用し、大型機械を用いた大規模な土地利用型農業が行われているため。
3. 冬の積雪量が多く、その雪解け水を活用した灌漑設備が整っているため。
4. 都市近郊に位置しているため、輸送園芸農業として野菜の施設栽培が発達したため。

問4 日本の多くのニュータウンでは、建設から数十年が経過し、住民の高齢化や人口減少が進行しています。こうした状況において、持続可能な街づくりを目指すために行われている「若年人口」を増やすための工夫として、その目的と内容が合致している説明はどれですか。（2023年 埼玉県公立入試 類似）

1. 若年層が好む大規模なレジャー施設を建設するため、既存の公園や学校をすべて解体する。
2. 高齢者の外出を控えるように促し、若者が街の施設を優先的に利用できるような条例を制定する。
3. 交流の場を設けて世代間のつながりを強めるとともに、子育て環境を整備して若い世代の定住を促す。
4. 人口減少を食い止めるため、空き家となった住宅をすべて公的機関が管理し、更地のまま保存する。

問5 近畿地方の人口移動に関する統計を分析すると、周辺の府県から特定の地域へ向けて、通勤や通学を目的とした大規模な人の動きが見られます。このように、京都府、兵庫県、奈良県といった近隣の県から多くの流入人口があることで、昼間人口が夜間人口を大きく上回っている、近畿地方の経済・文化の拠点となっている府県はどこですか。（2018年 福岡県公立入試 類似）

1. 大阪府
2. 京都府
3. 兵庫県
4. 和歌山県

問6 日本の果物生産に関する統計において、和歌山県が全国1位の生産量を誇り、次いで愛媛県、静岡県が上位を占めている果実について、その栽培地域の特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2015年 富山県公立入試 類似）

1. 温暖な気候と日当たりの良い山の斜面、水はけの良さを活かしてみかんが栽培されている。
2. 夏の冷涼な気候と平坦な土地を活かして、青森県を中心にりんごが栽培されている。
3. 水はけの良い扇状地が広がる山梨県を中心に、ぶどうの栽培が盛んに行われている。
4. 冬でも温暖な気候を活かし、高知県などの平地でビニールハウスを用いたピーマンの促成栽培が行われている。

問7 和歌山県の有田市周辺など、2万5千分の1地形図において山の斜面に「丸の中に点」の地図記号が密集している地域で見られる、近畿地方を代表する農業の様子として正しいものはどれですか。（2015年 富山県公立入試 類似）

1. 全国1位の生産量を誇るみかんの果樹園が広がり、急斜面を活かした栽培が行われている。
2. 平地の水田地帯を利用して、大消費地である大阪や京都向けの米作りが行われている。
3. 標高の高い高原の冷涼な気候を利用して、レタスやキャベツなどの高原野菜が栽培されている。
4. 都市の近くで新鮮な野菜を供給するため、高度な施設を利用した近郊農業が行われている。

問8 大阪府や兵庫県を中心とする阪神工業地帯の産業構成について述べた文として、背景や実態をふまえて最も適切なものはどれですか。（2020年 岡山公立入試 類似）

1. 自動車産業の集積が著しく、製造品出荷額の過半数を機械工業が占めている。
2. 重化学工業の割合が高いだけでなく、周辺の広大な消費市場を背景に食料品工業も発展している。
3. かつては繊維工業が中心であったが、現在は北九州工業地帯と同様に鉄鋼業の出荷額が最も多い。
4. 大規模な石油化学コンビナートが集中しており、化学工業のみに特化した構造となっている。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 網の目のように発達した鉄道網を利用し、兵庫県や奈良県などから通勤・通学のために流入する人が多いため。	昼間人口が夜間人口（常住人口）を上回る現象は、その地域が周辺地域に対して就業や就学の場を提供している中心地であることを示しています。大阪府の場合、大阪駅を中心に周辺の府県へと繋がる鉄道網が高度に発達しているため、兵庫県や奈良県といった周辺地域から多くの人々が仕事や学校のために移動してきます。このように、昼間人口比率が100%を超える地域は都市としての中心性が高く、100%を下回る地域は「ベッドタウン」としての性格が強いことがわかります。
問2	答え 1 和歌山県	近畿地方の和歌山県は、阪神工業地帯から続く沿岸部に大規模な製鉄所や石油コンビナートが建設されたことで、重化学工業が発展しました。統計上も石油製品や鉄鋼の割合が非常に高いことが大きな特徴です。これに対し、静岡県は輸送用機械、長野県は電子部品や精密機械、滋賀県は電気機械や化学工業が盛んですが、和歌山県ほど石油・鉄鋼に特化した構成ではありません。
問3	答え 1 黒潮の影響を受けた温暖な気候であり、水はけが良い傾斜地が多く存在するため。	和歌山県は黒潮が流れる太平洋に面しており、年間を通じて温暖な気候に恵まれています。また、県域の多くを山地が占めており、果樹栽培に適した「日当たり」と「水はけ」の条件を満たす傾斜地が多いため、古くからみかんや梅などの果樹園が斜面に作られてきました。これに対し、広大な平野は北海道、雪解け水の活用は北陸地方、輸送園芸による野菜栽培は宮崎県や高知県などの特徴です。
問4	答え 3 交流の場を設けて世代間のつながりを強めるとともに、子育て環境を整備して若い世代の定住を促す。	ニュータウンの活性化には、単に住宅を維持するだけでなく、新たな世代が住みたいと思える環境作りが不可欠です。交流の場やイベントなどのソフト面と、子育て支援施設の充実などのハード面を組み合わせることで、若年層の流入を促し、地域の活気を取り戻す取り組みが全国のニュータウンで重要視されています。
問5	答え 1 大阪府	大阪府は近畿地方の中心的な都市機能を備えており、周辺の各府県と鉄道網などで強く結ばれています。そのため、仕事や通学のために近隣の県から日々多くの人々が移動してくる「流入人口」が多いのが特徴です。その結果、居住者数を示す夜間人口に比べて、日中に活動している昼間人口が非常に多くなり、地域の拠点としての役割を果たしています。
問6	答え 1 温暖な気候と日当たりの良い山の斜面、水はけの良さを活かしてみかんが栽培されている。	和歌山県はみかんの生産量が日本一であり、特に有田市周辺などの沿岸部に近い傾斜地で盛んです。みかんの栽培には、年間を通じて温暖であること、日当たりが良いこと、そして水分が溜まりすぎない水はけの良い土地が適しているため、地形図上で「丸の中に点」が描かれた果樹園の記号が山の斜面に密集している様子が見られます。
問7	答え 1 全国1位の生産量を誇るみかんの果樹園が広がり、急斜面を活かした栽培が行われている。	地形図の「丸の中に点」の記号は果樹園を表します。和歌山県は全国1位のみかん産地であり、特に有田周辺では山地が海に迫る地形を活かし、日当たりの良い斜面一面にみかん畑が作られています。このような土地利用は、水はけを好む果樹栽培の特性に合致したものです。
問8	答え 2 重化学工業の割合が高いだけでなく、周辺の広大な消費市場を背景に食品工業も発展している。	阪神工業地帯は、古くから「天下の台所」と呼ばれた大阪を中心に、人々の生活に密着した食品や医薬品などの産業が発展してきました。重化学工業化が進んだ現在でも、パンや清酒、冷凍食品といった食品工業の製造品出荷額が、他の中京や京浜といった工業地帯に比べて高い割合を維持している点が、入試においても頻出の重要ポイントです。